

SCOUTING

2019
No.730
3

特集

新年度に向けて 青少年プログラムを 再確認する

報告

第22回全国スカウトフォーラム



SCOUTS®
Creating a Better World



そなえよつねに
ボーイスカウト

CONTENTS

02 新年度に向けて
青少年プログラムを再確認する

06 報告 平成30年度日韓スカウト交歓計画

07 ニッポン全国元気団紹介
福島連盟 福島第1団

08 報告 第22回全国スカウトフォーラム

09 2019年度全国大会

09 信仰奨励

10 2019年度指導者訓練コース開設予定一覧

11 野外活動のための安心・安全講座
いじめ防止対策について

12 10万人の力をあわせて
ボーイスカウトの魅力発信!

14 ローカルホットライン

15 エッセイ

16 日本連盟創立100周年に向けて
ボーイスカウト再興への道 シリーズ(7)
中途退団抑止の取り組み

17 富士特別野営2019

17 自然災害への支援状況報告

18 スカウトとウッドクラフト®
日本連盟「教育規程」で再認識する
スカウト教育の特性とウッドクラフト教育の
重要性

20 キャンプ場ガイド

21 維持会員

21 日本連盟情報

22 『救急法 - 野外活動における応急手当 -』
改訂版2019発行

23 スカウトショップ

新年度に向けて 青少年プログラムを 再確認する

2022年、ボーイスカウト日本連盟は創立100周年を迎えます。

これまで数多くの青少年がスカウトとして活動し、社会へはばたいていきました。スカウト運動は、青少年一人ひとりが社会の責任ある一員となれるよう、個人の全面的な成長を支援する教育運動です。「プログラム」といえば、隊集会や年間計画のプログラムを指すことが多いですが、今号では、広い視点からのスカウト運動における青少年プログラムについて考えてみましょう。

青少年プログラムを考える

1999年の世界スカウト会議で採択されたスカウト運動の「使命声明」は、世界スカウト機構規約を基本とし、世界におけるスカウト運動の役割を再確認することを目的としていました。

冒頭にも述べたとおり、スカウト運動は、単なるレクリエーションの活動を提供するものではなく、教育的意図をもった青少年のための運動ですが、この使命声明を採択するにあたり、世界中で展開されているスカウト運動において、このことが阻害されている可能性が指摘されました。スカウト運動の果たすべき使命や運動の目的が、正しく理解されていないという問題です。

たとえば、「キャンプ」などの野外活動は、青

少年の成長を促すというこの運動の目的を実現するための手段(方法)のひとつであるということが、運動に関わるすべての人々に理解されているか、スカウト運動が地域社会から遊離したものになってはいないか、思春期以降の年代の青少年にとって魅力的な活動になっているかどうか、という問題です。

どの国の連盟でも、「運動の使命」に関することは、重大かつ普遍的なものとして捉える必要があります。もし、このことを軽んじれば、この運動の目的達成が難しいばかりでなく、運動に対する社会のイメージも誤って理解されることになるでしょう。

このことは、ボーイスカウトならではの「青少年プログラム」の特性に、大変関連深いことといえます。

使命声明

スカウトの使命は、スカウトの「ちかい」と「おきて」に基づいた価値体系をとおして、人々が個人としての自己実現を果たし、社会において建設的な役割を果たすことができる、よりよき世界を築くのに役立つよう、青少年の教育に貢献することにあります。(後略)

【スカウトのための戦略 1. 使命声明を理解する】



色とします。それは、「ちかい」と「おきて」の実践、班制教育、進歩制度などを要素とする「スカウト教育法」（それぞれの青少年の成長度合に応じた段階的な自己教育のシステム）を用いることです。このように何を（活動）、なぜ（目的）、どのように（方法）行かうかが調和したものがボーイスカウトの青少年プログラムであり、スカウト運動の目的を達成するための手段なのです。

気をつけたい事柄

ここで気をつけなければならないことがいくつかあります。

青少年がスカウト運動に参加する理由は、「教育」に興味があるからではなく、自分たちの期待に応えてくれる、楽しくてやりがいのある活動に魅力を感じ、参加することに意義を感じるからであるということをお忘れはいけません。青少年は、ハイキングが自分の成長にどれほど良いのかに意義を感じるのではなく、たとえば大自然の中でコンパスを用いずに進路を発見する方法やマッチやライターを使わずに火を起こす方法といった、冒険的な活動や挑戦に興味をもつということです。つまり青少年プログラムは、青少年の興味、関心、ニーズなどを反映した魅力的な活動である必要があります。

次に気をつけなければならないのは、青少年プログラムの本質は青少年の意思決定の能力を発達させるということ、指導者（大

人）が見失わないようにすることです。それぞれの成長度合い（年齢）に応じて、参加する隊のプログラムや活動を計画したり、ルールを決めたりすることは、自分たちの判断や行動に責任をもつようになるプロセスになります。それは彼ら自身のニーズを反映させる方法であり、活動に参加することの意義を見つけることでもあります。その結果、スカウトの「自発性」や「自主性」が高められるのです。

ところが、指導者（大人）が自らの手で魅力的な活動を提供しなければならないと思った場合、それは青少年の意思決定能力を培う機会を失うことになりかねません。

最後に気をつけることは、青少年プログラムが、スカウト運動で青少年が体験する「すべて」であるということです。つまり、青少年プログラムには、ハイキングの計画を立てることだけでなく、キャンプ中に食事の支度をする、隊集会の後片づけ、班で活動する中で起こる日常的なさまざまな事柄、こういったことすべてが含まれるということです。青少年が意思決定に自ら参画することによって、こういった細かなことも意義ある大切な活動のひとつになるということでもあります。しかしながら、ときとして活動を円滑に行うという表面上の理由から、指導者（大人）が、その機会を青少年から奪ってしまうことがあります。

スカウト運動は、単に青少年の希望を成人が叶えるというものではありません。

青少年プログラムとは何か

青少年プログラムとは、青少年がスカウトとして体験する「すべて」のことが、この運動の目的と原則によって方向づけられ、スカウト教育法によって行われる教育活動であり、個人の成長という面での段階的な枠組みであり、過程でもあります。

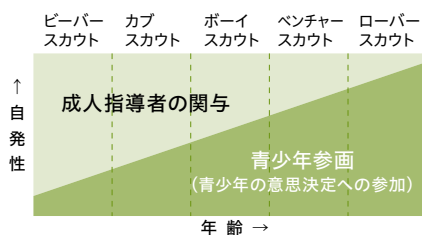
少々難解な説明となりましたが、ボーイスカウト隊のハイキングを例に考えてみましょう。ハイキングは学校や家庭、あるいは友人とも行えますが、それらとスカウト活動で行うハイキングの違いは、その「目的」にあります。活動においては、体を動かすという身体的な成長や自己の限界への挑戦にとどまらず、自然の中での新たな発見、観察力や洞察力を培うというように、身体的だけでなく知的、情緒的、精神的、社会的発達をも促すという教育的な目的をもって行います。

とはいえ、そのような目的をもったハイキングはほかの青少年団体でも行われています。しかし、スカウト運動ではハイキングという活動を行う際に、特別な方法を用いることを特

学校や家庭で行うハイキングと
スカウト活動で行うハイキングの違いは
その「目的」にあります。

青少年の参画

青少年プログラムは、「青少年の意思決定への参加」を基盤としています。



上の図は、「青少年の参画」と「指導者の関与」の度合いを示したもので、スカウトの成長をイメージし、年齢に伴って「青少年の自発性」が増していく度合いを表しています。低年齢では指導者が主導することが多いのですが、年長になるほど個々のスカウトに決定させて責任をもたせるという、いわばスカウトが主導して指導者はそれを支えるといったスタイルに変わっていくことを示しています。

「スカウティングは、大人が管理・運営する青少年のためのものではなく、大人に支えられた青少年の運動である」ということが世界スカウト会議でも確認されています。スカウト運動は、青少年と大人が熱意と経験を共有し、「ともに学ぶ」ことができる社会を築く可能性を提供するものであるとしています。青少年にとって魅力的かつ社会の現実に十分に適応した質の高いプログラムは、支援する成人をも魅了するものとなるでしょう。



「パトロール・システムは少年一人ひとりに、自分には班のために一定の個人的な責任があるということを示す。パトロール・システムは隊のために班は一定の明確な責任を持っているということを示す。各班に知らせる。(中略)パトロール・システムを通じて、スカウトたちは隊が行うことに関して重要な発言の機会を持っているということを示す。隊とさらに言うなら全てのスカウティングに真の協調的な努力をさせるのは、まさにパトロール・システムである」

ベーデン・パウエル著『隊長の手引(新訳版)』

時代に即した青少年プログラム

加盟員の数が減っている現状は、日本のスカウト運動にとって解決しなければならない最優先事項です。そのためには、スカウトが魅力を感じる質の高いプログラムが重要なポイントになります。では、どのようにすれば質の高いプログラムが提供できるのでしょうか。

前述の青少年プログラムの在り方を再度確認することから始まりますが、とりわけ活動内容が、参加する現代の青少年のニーズに適応しているかどうかを知ることが重要です。そこで現代の青少年の環境として、学校教育の変化や現状などに目を向けてみましょう。

小1プロブレム、中1ギャップ

スカウト関係者の中には、「小1プロブレム」という言葉を耳にしたことがある方も多いことでしょう。これまでも入学した後の時期には見られる事象でしたが、小学1年生が学校になじめず、先生の話が聞かない、授業中に勝手に歩き回るなど授業が成立しない状況が生じ、その状態が長期化するというケースが改めて問題になっています。この原因はさまざまにいられていますが、本当の理由は不明のようです。現在、この問題について、幼稚園や保育所と小学校が連携していく取り組みが行われています。

また、他の年代、特に入学時期を迎えた中学1年生でも「中1ギャップ」といわれる、学力低下、いじめや不登校等の問題を耳にすることがあるでしょう。こちらも小学校から中学校へ進学する際の問題なので、小学校と中学校が連携して問題に取り組むことが求められています。これらの問題は原因不明とされつつも、それぞれの年代の特性や、子どもを取り巻く環境が変化していることに大きな要因があると考えられています。特に「個人が集団にどう関わるか」という問題が大きいのではないのでしょうか。それならば、スカウト運動はその解決に貢献できる要素を多くもっているといえるのではないのでしょうか。

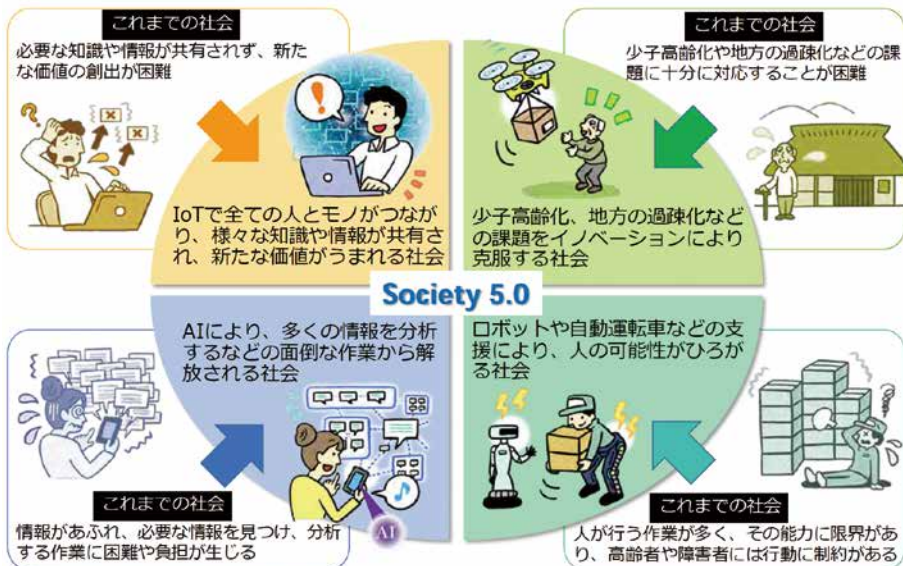
変わる学習指導要領

学校には教育課程の基準となる学習指導要領があります。学習指導要領は、その時代の子どもたちを取り巻く社会環境などを考慮しながら、学力や課題を検討したうえで10年先の時代に求められる能力育成を検討して作成され、およそ10年ごとに見直されます。

幼稚園ではすでに2018年から新たな教育要領が実施されており、小学校は2020年、中学校は2021年、高校は2022年に最新の改訂による学習指導要領の全面実施が予定されています。

今回の改訂では、その背景に、情報化やグローバル化などの急激な進展があり、特に近年はAI(人工知能)の進化によって社会的変化が進んでおり、予測が困難な未来が到来するといわれています。そのような予測困難の中、

大人が管理・運営する青少年のためのものではなく、大人に支えられた青少年の運動である。



出典：Society 5.0「科学技術イノベーションが拓く新たな社会」説明資料（内閣府）（https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0.pdf）

青少年が就く職業について、今後、10～20年で現在の仕事の半数近くが自動化される、または今は存在しない仕事も多く生まれるとする研究者の考察もあります。これからの世代は、このような変化に対して一層適切に対応していくことが求められるでしょう。内閣府では、これまで情報社会といわれていた時代から、次の社会は「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」と定義しており、この社会を「Society5.0」としています。

このような未来予測の中で、現在の子どもたちが抱える問題としては、次のようなことが指摘されています。

- 判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べるのが弱い。
- 自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等が国際的に見て低い。

上記の指摘の原因について、これまでの学校教育では、子どもの自信を育み能力を引き出すことが十分でないことが挙げられました。

そこで今回の学習指導要領の改訂では、予測困難な未来を前提として、子どもたちが社会の変化に受け身で対処するのではなく、現在と未来に向けて、一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮し、自らの人生を切り拓き、よりよい社会と幸福な人生を創り出していけるよう、そのために必要な力を育むことを目指しています。

具体的には、これまでの教科（コンテンツ）中

心の教育課程から、実社会で求められる資質や能力（コンピテンシー）を重視した教育課程となっています。そしてこの教育課程を実現させるためには、社会とのつながりを意識した教育課程、社会に開かれた教育課程として、学校が地域社会と連携していくことも学習指導要領の改訂と一体的に進められています。この動きは、「次世代の地域創生の基盤」をつくるという視点をもっています。

学習指導要領の改訂によって進められているものには、「どのように学ぶか」という学習方法も含まれており、子どもたちがより能動的かつ主体的に進める授業として、「アクティブ・ラーニング」という小グループによる問題解決や、討論という全員参加型の学習方法も採用されます。これはスカウト教育法という「小グループ」、「行うことによって学ぶ」という要素に重なるものといえます。

まとめ

学習指導要領から変わろうとする学校の様子を考えてみると、スカウティングと重なる部分が多いようです。これは、スカウト運動の内容や教育方法が、現代社会に求められているものであるといえるのではないのでしょうか。もちろん、スカウト活動でしか味わえないものもたくさんあります。すべての指導者が「青少年プログラム」の本質を見定め、日々の活動の中でそれを実践していくことで、スカウトたちはいきいきと活動をしていけるのではないのでしょうか。

班活動バッジ

ボーイスカウト部門では、班活動を促進する「班活動バッジ」を設定しています。班制教育（パトロール・システム）は、スカウト教育の基本であり、大きな柱です。このバッジは、年度ごとに班員の協力と連携で取得できるもので、よりよき「班」を目指すためのツールのひとつとして班旗につけたり、班旗以外でも班員個々の持ち物に着用したりできます。



※2019年度から、年度の記載を外し、年度ごとの地色変更（4年間で1サイクル）を検討しています。

班活動バッジの取得要件

班活動バッジの取得要件は次のとおりとする。

- ① 班名・班旗・班エールがある。
- ② 班連絡網が作成されている。
- ③ 隊集会とは別に、班集会が月に1回以上開催されている。
- ④ 班全員の隊集会出席率が80%を超えている。
- ⑤ 班長会議に毎回班長が参加している。
- ⑥ 班員が8人いるか、1年前よりも増えるよう努力している。
- ⑦ 班員全員が制服を正しく着用し、記章を正しく着けている。
- ⑧ 班内役務分担が明確に決まっている。
- ⑨ 班ハイキングまたは班キャンプを1回以上実施した。
- ⑩ 班活動バッジ取得要件を満たしていることを班長会議が承認する。



報告

平成30年度 日韓スカウト交歓計画

日韓スカウト交歓計画は、参加者が両国の理解を深め、より良好な関係を築くことを目的に、日本連盟は「日韓スカウト交歓計画(韓国スカウト招聘)」、韓国連盟は「韓日スカウトフォーラム(日本からの派遣)」をそれぞれ開催しています。

平成11年度以来、韓国から通算約2,000人のスカウトと指導者が来日し、日本のスカウトと交流しました。今年度も1月12日(土)から20日(日)までの9日間、韓国からスカウト36人、指導者4人、計40人を招聘し、神奈川県内において、日韓スカウトの「交流プログラム」、韓国スカウトの「見学プログラム」および「ホームステイプログラム」の3つのプログラムを実施しましたので、その模様をご紹介します。



■期間 1月12日(土)～20日(日)9日間 ■場所 神奈川・川崎市、横浜市 ほか ■人数 韓国連盟参加者(スカウト36人、指導者4人)計40人、日本連盟参加者(交流プログラム参加)計40人(28県連盟) ■日程 1月12日(土)～14日(月)日韓スカウト交流プログラム／1月15日(火)～18日(金)韓国派遣団見学プログラム／1月18日(金)～20日(日)韓国派遣団ホームステイ

■日韓スカウト交流プログラム



1月12日(土)、ローバースカウト等が歓迎する中、韓国派遣団が日本に到着し、9日間の交歓計画がスタート。28県連盟から日本のスカウト40人も集結し、川崎市青少年の家で3日間の交流プログラムを実施しました。

1日目は開会式と歓迎夕食会。2日目は日韓スカウトが混成グループを編成し、それぞれ電車で横浜市歴史博物館、大塚・歳勝土遺跡、モザイクモール港北などの探索へ。その後、見学で学んだことや感じたことを踏まえて、韓国のスカウトは自国との、日本のスカウトは自分の地域との、共通点と相違点話し合いました。夕食後の文化交流会では、日韓スカウトがそれぞれ

この日のために準備してきたダンスや歌を披露し、大いに盛り上がりました。韓国のスカウトは、韓国のお菓子や伝統遊びであるチェギチャギや、伝統衣装のチマチョゴリなどを紹介してくれました。

交流プログラムの最終日は各混成グループによる発表。この3日間で互いに学んだことを共有しました。その後の閉会式では、両国の代表スカウトにより、このプログラムが両国の友情を深めるものになったことを改めて確認しました。

なお、今回の交流プログラムは、開催地である神奈川連盟と昨年の開催地である福岡県連盟のローバースカウトが中心となり、企画運営をしました。

■韓国スカウト各地見学およびホームステイ



交流プログラム後、韓国スカウトは神奈川県内および東京都内にて各地を見学し、神奈川県内でホームステイ。

見学では「赤レンガ倉庫」「山下公園」「中華街」を訪れ、横浜の歴史や外国文物の到来について学び、「浅草寺」「スカイツリー」「江戸東京博物館」「ソニーエクスプローラサイエンス」を訪れ、首都・東京についても学びました。さらに、昨年10月に移転したスカウ

トショップとスカウト会館では、日本のボーイスカウト運動についても学んだほか、神奈川県立神奈川総合産業高等学校および東京都内にある自由学園の生徒とも交流しました。

最後は、ホームステイプログラム。韓国スカウトはホスト家族に迎えられ、2泊3日、家族の一員として、日本の生活習慣や言語を学びました。

■参加スカウトの声(抜粋・要約)



日本のスカウト
(交流プログラム参加)

- 初めて外国のスカウトと交流できていい経験になりました。韓国のスカウトとたくさん話して、仲良くなれました。
- とても自分の成長につながる内容でした。
- 韓国の人と交流ができて、充実した日を送ることができました。
- 今回のプログラムはとても楽しかったし、参加することができてよかったです。
- 日を重ねていくうちに、お互いのことも少しずつ分かってきて通じ合えました。



韓国のスカウト

- 日本について知る機会になりました。
- 日本は韓国とあまり違いのない国だと感じました。
- とても有意義な時間を過ごしました。
- 文化、言語などを通じて友情を深めました。日本の友だちがたくさんできました。
- 韓国に帰ったら友だちにぜひこのプログラムについて伝えたいです。



ニッポン全国 元気団 紹介

福島連盟 福島第1団

東北地方の南東部に位置し、全国で3番目の面積がある福島県は、豊富な農産品や温泉が多いことでも知られる。県の中通り北部に位置する県庁所在地・福島市に、今回お話を伺った歴史ある福島第1団がある。



前を向いて歩む姿勢。伝統と信頼が繋ぐ70年

70年の歴史

1949(昭和24)年8月、福島第3隊あづまボーイスカウトとして登録。福島第5団を経て現在は福島第1団として歴史を刻み、今年創立70周年を迎える。

2011(平成23)年3月に起きた東日本大震災とその後に発生した福島第一原子力発電所事故により、ホームグラウンドとしていた「つつじが森野営場」が使えない時期や野外活動自体が難しいときもあったが、県内外のスカウト関係者の支援もあり、活動を継続することができた。現在では、スカウト数減少に歯止めをかけ、福島市全域からスカウト45人、指導者26人が集まっている。



特別なことはしていない。 それが特徴

各隊、特別な活動はしていないという。ビーバー隊は近隣の運動公園や信夫山などの野外で「ほんもの真物」に触れ、楽しく活動する。カブ隊では組集会をしっかりと行い、ほとんどの隊集会を野外で実施。スカウトがワクワクドキドキできる活動にするため、指導者自身がワクワクする活動を考えている。好評なのは、ストーリー性のある活動。歴史上の人物などを登場させ、手紙や暗号を使って、スカウトたちが物語の主人公になりきれば、たとえごく簡単なストーリーでも、なじみの活動場所がさまざまなフィールドに変わる。ボーイ隊以上は、部活動などもあり参加率はさまざま。基本を大切に、いずれ裏方を楽しめるスカウトになることを目標にしている。

各隊に一貫しているのは、基本に忠実でいること。そして、問題を悲観せず、自分で考える姿勢をもつこと。

本質、そして価値を知る

70年続く団にも問題は少なくない。被災当時のビーバー年代がまもなくベンチャー年代になるが、当時、屋外での活動が困難だったこともあり、その年代のスカウトがいなかったため隊存続自体に課題を抱えている。それでも、隊指導者、団指導者がそれぞれの役割を果たしながら一丸となることで課題に立ち向かおうとしている。

人数が少ないことを言い訳にしない。少ないからこそ、一人ひとりのスカウトに寄り添い、より深く理解できる。指導者がスカウトにこうなってほしい、一緒にこうしていきたいという希望やビジョンをもつ。だからこそ、指導者の真剣な姿勢が、スカウトにも保護者にも伝わっていく。

そして、スカウトを「今、これが良かった」とたくさんほめる。自分の何が良かったのか、ほめられた理由を明確に伝えることで、「認められたことを続けてみよう、またやってみよう」と思える。嬉しい経験の積み重ねでスカウトのやる気が向上する。逆に、悪いところも明確にその理由を伝える。これは、一人ひとりをきちんと見ているからこそできることだ。

伝統を絶やさぬように

福島第1団には、恒例の活動が多くある。団の新年会として行う「もちつき」は50年以上欠かさず実施してきた大事な活動で、友好団のガールスカウトと合同で開催。

中でも伝統的なのは赤い羽根共同募金。団創立時から続く活動で、街中で奉仕するスカウトの姿にあこがれて入団したスカウトも多いという。毎年欠かさず実施してきた募金活動も、震災後、放射線による健康への不安により継続が危ぶまれた。屋外での長時間の活動ができない。このままでは、団の伝統行事が途絶



えてしまう。団で線量計を購入し、屋外でのスカウト活動を継続するために、市内を調べまわった。最も数値の低い場所を探し出し、1時間以内という制限を設け、任意参加で募金活動を実施した。集まらないかと思ったスカウトも、伝統を絶やすまいと参加してくれた。団としての結束を感じた瞬間だという。

保護者の理解と自発的なスカウト

困難な状況でも前を向いて歩む福島第1団。「スカウトは兄弟。団は家族」をキーワードに、70年続けてきた活動。これには、団委員会や保護者会、OB会の支えも重要。特に保護者の協力は欠かせない。協力を得るためには、活動を知ってもらうことが最適と考え、年に数回開催する団行事に合わせて「プロジェクトA」と題した活動報告会を実施。隊ごとの映像でそれぞれの活動を報告し、内容や感想を共有することで、スカウト自身には上進へのあこがれを促し、保護者には具体的な活動を見て理解を深めてもらう。これにより、スカウト活動の意義がより高まる。おかげで、かつてはスカウト経験者のみの隊指導者体制だったが、現在は保護者からの指導者も増えたという。

さらに、この団には、そんな楽しい活動へ友だちを誘うために独自でポスターを作っているスカウトや地元愛に溢れるスカウトもいる。自分の参加する活動や地域、そして「スカウト」であることを誇りに思い、自分の手で発信することができるスカウトたち。そして、前進するために考える指導者の姿は、確実にスカウトに伝わり、彼らの成長に繋がっている。

福島第1団という団家族は絆を深め、今後も着実に歩み続けるだろう。



お話を伺った皆さん。温かく迎え、芯のある熱い想いをお話しくださいました。

報告 第22回 全国スカウトフォーラム

今回で22回目を迎えた全国スカウトフォーラム。会場である東京・国立オリンピック記念青少年総合センターに44県連盟から代表ベンチャースカウトが集まりました。今回のテーマは「社会貢献」。日々の善行をスローガンとする私たちスカウトだからこそできることとはどのようなことか、さまざまな意見を交わしました。また、今回もローバースカウトが運営委員長を務め、ローバー年代の運営委員を中心に企画、運営をしました。



- 期間 2018年12月22日(土)～24日(月・休)
- 会場 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
- 参加者 44県連盟代表スカウト44人
- スタッフ 全国スカウトフォーラム運営委員10人

- テーマ 私たちができる社会貢献とは
- 後援 独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 協力 認定 NPO 法人日本ファンドレイジング協会



1日目 開会式、県連盟フォーラム発表、基調講演

フォーラム初日。緊張の面持ちで集合したスカウトでしたが、アイスブレイキングや全国のスカウトとの交流で次第にグループの絆を深めました。その後、県連盟フォーラムの発表と基調講演を行いました。

2日目 ワークショップ、分科会、グループ発表

午前中は、前日の基調講演を踏まえたワークショップを行い、各地で活動するNPO団体の取り組みや課題について理解を深め、解決策を検討しました。午後は、フォーラムテーマである「私たちにできる社会貢献とは」について討議しました。それぞれ県の状況や文化などを知ったうえで、グループごとの分科会を行い、夜のグループ発表では討議事項を全体で共有しました。その後、議長団を選出し、翌日に向け、フォーラム宣言をとりまとめました。

3日目 全体会【宣言採択】、閉会式

最終日は朝から全体会を開き、フォーラム宣言の採択に向けて全員で討議しました。宣言は、伊藤議長(千葉・流山第3団)より、福嶋日本連盟コミッショナーへ手渡しました。

第22回全国スカウトフォーラム フォーラム宣言

メッセージ

「ベンチャースカウト主導のスカウト活動を実現させよう！」

- 地域やスカウト同士のつながりを大切に、活性化させる。
- 私たちでよりよい社会の実現を目指す。
- 人々に私たちの活動を伝え、理解を得る。

左記のフォーラム宣言は、フォーラムでの討議が参加者だけでなく広く全国のスカウトに伝わり、スカウトの気運を高めて各県連盟へフィードバックすることを旨としたメッセージとその取り組み目標として、参加者全員で採択しました。

事前に開催した各県連盟フォーラムで検討したアクションプランの実現に向け、地域の人々や各種団体と連携すること、アフターフォーラムの開催やその後の各団での活動に活かすものとします。



運営委員長
内田 早紀
(熊本・八代第5団)

今回のスカウトフォーラムには、多くの都道府県連盟から参加がありました。代表スカウトたちは多様な価値観に触れ、各地域にさまざまな課題が存在することや、地域ごとに最適な解決方法があることを認識することができたと思います。

代表スカウトの皆さんが熱い想いを込めて創り上げたメッセージを、アフターフォーラムで多くの仲間へ伝え、地域にと

って最適なアクションプランを実践していくことを期待しています。

各団や地区、県連盟におかれましても、スカウトへご支援いただきますよう、お願いいたします。

寄付月間2018 ～ Giving December

欲しい未来へ、
寄付を贈ろう。



Giving
December
寄付月間 2018

本フォーラムは、寄付月間(Giving December)キャンペーンの公式認定企画として実施。寄付月間は、寄付が人々の幸せを生み出す社会をつくるために、12月1日から31日までの間、NPO、大学、企業、行政などが協働して行う全国的なキャンペーンです。特定の団体への寄付を募るものではなく、一人ひとりが寄付や社会貢献について考えたり、実践したり、ソーシャルメディアで広げたりする機会とするものです。



2019年度 全国大会

[テーマ]

Creating a Better World

(より良い世界を創ろう)

～ 活動的で自立した青少年を育てよう!! ～

© 鹿児島市

全国大会は、社会へのスカウト運動の理解を広めるとともに、加盟員の研鑽の場、連盟と参加者の双方からの情報交換の場として開催します。参加者が全国の多くの仲間と触れ合うことによって、この運動に関わっている喜びを実感し、意義を分かち合い、また、日本連盟や都道府県連盟の報告や展示、年次表彰のほか、全国の指導者によるスカウト運動推進に向けた各種研修、情報交換や懇親により、幅広くスカウト関係者から意見や要望を聞くことで、さらに開かれた教育運動を目指します。

ボーイスカウト鹿児島県連盟より



© 鹿児島市

雄大な桜島、指宿・霧島の温泉、世界遺産の屋久島に代表される豊かな自然。広くアジアに開かれた南北600kmにわたる多様な文化、神話の時代から明治維新、そして現代へ繋がる歴史。日本一を誇る黒毛和牛と豚豚などの農畜産物。

「自然・歴史・そして食!」魅力満載の「どんでん鹿児島」が、多くの皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

■ 日程 / 5月25日(土)～26日(日)

■ 場所 / 鹿児島・鹿児島市

【会場】 鹿児島市民文化ホール

〒890-0062 鹿児島市与次郎2-3-1

【交歓会】 鹿児島サンロイヤルホテル

〒890-8581 鹿児島市与次郎1-8-10

- 主催 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
- 開催県連盟 日本ボーイスカウト鹿児島県連盟
- 開催協力 ボーイスカウト九州・沖縄ブロック
- 後援 (申請予定) 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、鹿児島市、鹿児島市教育委員会、薩摩川内市、日置市、いちき串木野市、阿久根市、鹿屋市、曾於市、さつま町、南日本新聞社、NHK 鹿児島放送局、MBC 南日本放送、KTS 鹿児島テレビ、KYT 鹿児島読売テレビ、KKB 鹿児島放送
- 協力 (予定) 公益社団法人鹿児島県観光連盟、公益財団法人鹿児島県観光コンベンション協会
- 参加者 どなたでも参加できます
 - ①ボーイスカウト指導者・役員(隊長、団委員長、地区コミッショナーの参加を期待します)
 - ②スカウトの保護者、育成会員、スカウトクラブ会員等
 - ③ローバースカウト
 - ④行政関係者、他団体関係者
 - ⑤一般市民、県内の青少年、その他
 ※参加申し込みは、3月中旬以降を予定しています。今後、ホームページ等でご案内します。



■ 大会参加費 ¥3,000- (資料および記念品代含む)

※開会式、吹奏楽コンサートおよびスカウティングエキスポは、一般向けに無料開放します

■ 交歓会参加費 ¥10,000- (5月25日 18:30～)

【主な日程】

5月25日(土) 12:00～15:15 開会式、表彰式他 / 15:30～17:30 諸会議 (県連盟代表者会議、全国県連盟コミッショナー会議、RCJ 総会) / 18:30～ 交歓会

5月26日(日) 9:00～11:30 全国スカウト教育会議(テーマ集會)

5月25日(土)～26日(日) スカウティングエキスポ(展示、体験コーナー他) ※団体、個人の展覧を広く公募します

信仰奨励

考えてみよう 「ありがとう」を言うことを

信仰奨励委員会 飯盛 安信

リーダーの皆さんは、スカウトに「ありがとう」を言うことをどのように指導していらっしゃるでしょうか。私自身、改めて聞かれても、わざわざ指導した覚えもなく、物をいただくとときとか、何かをしていただいた際に「ありがとうございます」と言うように指導していたように思います。

今回のタイトルは、カトリックスカウト協議会東京支部合同 B-P 祭のテーマでした。そこではビーバースカウトから指導者まで参加者全員が、家族やスカウト仲間、リーダーや周りの人々に「ありがとう」と言いたいこと、そして人だけではなく、食物や水、山や川、森や海、太陽や宇宙などに対し、日々普通に暮らしていることへの感謝の気持ちの「ありがとう」を短冊に書いて持ち寄りました。

皆さんの団でも組や班、隊などで短冊などに書き出して、例えばボードなどに樹木の形に貼って「ありがとうの木」を作ってみてはいかがでしょうか。そしてそれを分かち合って、自分が人の役に立つことをより多く実行することに少しでもつながれば良いのではないのでしょうか。

これは、B-P 祭のときでなくても、母の日、父の日、勤労感謝の日、クリスマス、または団の記念日や入団・上進式の日、あるいはスカウツタウン・サービスのひとつとして行っても良いと思います。

このような活動を通じて、人に何かをしていただいたことだけではなく、神様、仏様、自然などからのお恵みに気づき、感謝の心をもつことは、「ちかい」と「おきて」の実践に、とても大きな力になると思います。その意味で、スカウト一人ひとりが「ありがとう」を言うことを考える機会を、改めてもってみたいことをおすすめします。

そして、指導者の皆さんが明確な信仰をもっていただければと思います。明確な信仰に基づいた指導者の言葉や行動によって、スカウトに良い心がきくと伝わっていくと思います。

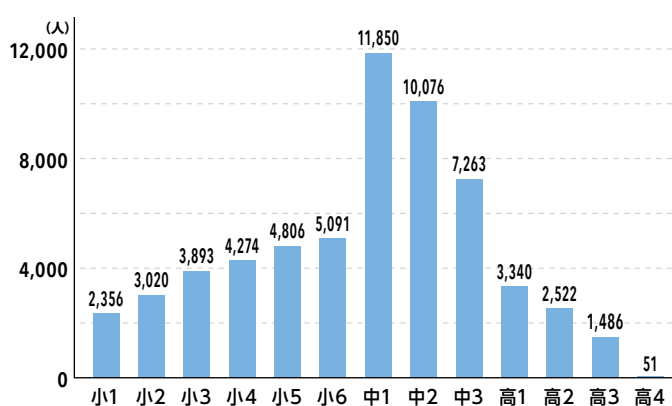
■ 野外活動のための安心・安全講座

いじめ防止対策について

はじめに

文部科学省が「全国の小中高校などで平成29年度に認知されたいじめが前年度から9万件以上増加し、41万4,378件と過去最多を更新した」（平成30年：問題行動・不登校調査）と発表しました。増加した理由は、必ずしも前年度よりも学校内が荒れているわけではなく、現場でいじめに相当する事象を事細かに捉え始めているからだとも記されています。つまり、最近では、ささいな言葉のやりとり、けんかやふざけ合いもいじめとして報告し始めた結果だとしています。そして、SNSなどインターネット上のいじめが増加していることにも懸念を抱いています。

■ 学年別加害児童生徒数のグラフ（文部科学省：問題行動・不登校調査より）



国や地方公共団体のいじめ防止対策について

「いじめ防止対策推進法」（平成25年）によって、国や学校は基本的な方針の策定の義務、地方公共団体は策定の努力義務を負い、学校は、いじめ防止に関する措置を実行的に行うため、複数の教職員、心理、福祉などの専門家などで構成される組織を置くことが要請されました。

複数の教職員がいじめの実態を複数の目で確認し、また、指導に生かすことが期待され、ボーイスカウトなどの青少年育成団体の運営や指導でも参考にすべきと考えられます。心理、福祉の専門的学びについてもこれまで以上に興味をもつべきであると思います。

私たちの地域では

ある市では、以下のようないじめ防止策を講じています。

「いじめ防止基本方針」（平成27年、平成30年改定）が策定され、学校が中心になっていじめ防止とその対策に取り組んでいます。もちろん、この基本政策以前からいじめや不登校児童生徒の存在に注意を払い、いくつかの対策が実施されています。

例えば、「〇〇市教育委員会教育目標」（平成21年）では、生命や人権を尊重し、平和を愛する豊かな心を持つ人の育成や支援が掲げられ、いじめ対策を含めたさまざまな対策の実施が推進されています。

「〇〇市教育振興基本計画」（平成23年）に基づいて、いじめ対応の教師用手引書や保護者向けリーフレットも配布されています。

さらに、「〇〇子ども人権宣言」（平成9年、〇〇市子ども人権委員会、各小学校児童会、各中学校生徒会）のもとに、平成20年より市内の全小・中

学校の代表児童・生徒による「〇〇市いじめを考える児童生徒委員会」が継続的に実施され、市内の児童・生徒間でのいじめに対する認識を確認できます。日ごろの教室内では発見できない出来事などを、児童・生徒たちの体験報告やグループディスカッションによって気づかされ、教師が真剣にメモを取っている姿がみられます。ただし、教育委員会内では毎年事業の成果を各学校へどのように持ち帰り、拡散し、いじめ防止につながっているかの調査や報告が不十分との意見も聞かれます。

〇〇〇子ども人権宣言

私たちは、いじめを絶対に許しません

- 感じとろう！ あなたにとってはささいなことでも、相手にとっては…？
- 考えよう！ 相手の気持ち、相手の立場になって。
- 勇気をもとう！ 一人の小さな声でも、みんなの大きな声に。
- うちあげよう！ 悩み、苦しみを友だちに、先生に、家の人に。

あなたも、みんなも輝く仲間づくりをしよう

- 笑顔で明るく気持ちよく、人と接しよう！
- たった一人の意見でも、みんなできよく聞き考え、大切にしよう！
- 喜び、悲しみ、悩みを語り合える友だちになろう！
- 見方、考え方など、自分との違いを認め合おう！

力を合わせ、すばらしい未来を築いていこう

- いじめのない明るく楽しい学校生活にするために学級会や児童会・生徒会で話し合おう！ 取り組もう！
- あなたにできることを、自分で考え、実行しよう！

1997.2.27 〇〇市子ども人権委員会
〇〇市立各小学校児童会
〇〇市立各中学校生徒会

さて、皆さんが住んでいる地域でのいじめ防止対策は、どのような組織や人々で実施されているのでしょうか。

- ボーイスカウトなどの団体や組織はどのような立場で協力しているのでしょうか。
- あなた自身は、いじめ防止のためにどのような行動や態度をとられているのでしょうか。

今以上に、子どもたちにとって豊かで安全な環境を整備する努力を続けたいものです。

おわりに

世界スカウト機構は、「世界中の子どもおよび若者の発達のために、安全な環境を維持することを約束する」（セーフ・フロム・ハーム世界方針2017年）と宣言しています。

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会

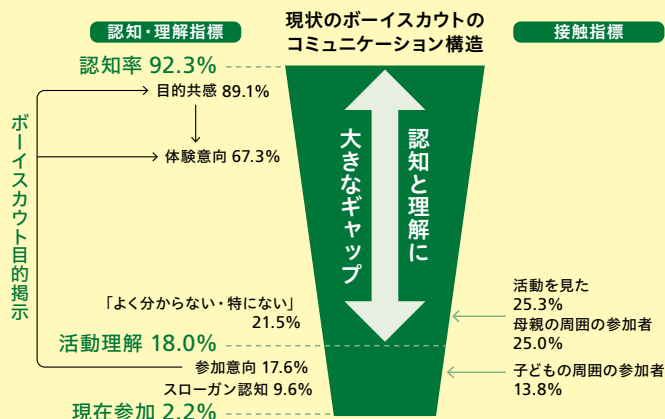
10万人の力をあわせて ボーイスカウトの魅力発信！

日本連盟では、2016年より社会連携・広報委員会を中心に「新・広報戦略10本の矢」という広報戦略を推進してきました。今後も、ボーイスカウトの魅力をより多く発信して、一人でも多くの新しいスカウトを仲間を迎えようというさまざまな取り組みを継続して行います。まもなく迎える新年度にあたり、改めて取り組みの基礎とした調査とこれからの取り組みについてご紹介いたします。

広報戦略の基となった調査

より多くのスカウトを迎えるための効果的な広報戦略を策定するため、2016年秋に5歳から10歳の子どものもつ母親を対象としたインターネット調査を行いました（サンプル数312）。

調査を通じてさまざまなヒントを得ましたが、中でも大きなポイントとなったのは、「ボーイスカウトの名前は92.3%の人が知っているが、どんな活動をしているかは18%しか知らない」ということでした。

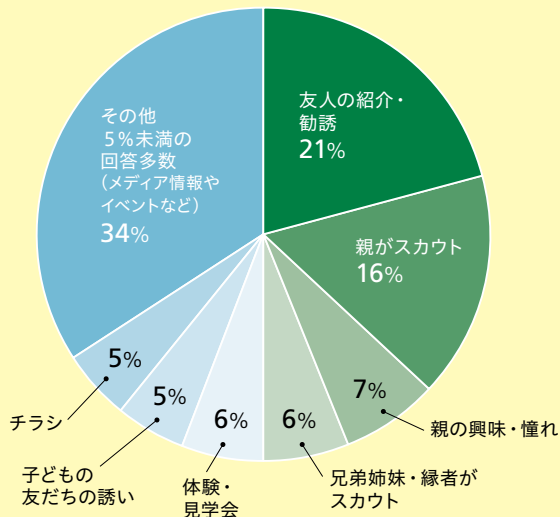


ボーイスカウトは大半の人々に「名前は知っているけど何をやっているかわからない謎の集団」と思われているということを変更して再確認する結果となりました。ところが、私たちの活動内容や理念などを知ってもらうと、目的共感89.1%、体験意向67.3%と、好意的な反応が得られました。つまり、ボーイスカウトの魅力をきちんと伝えることができれば、もっと仲間を増やせるはずなのです。

これに基づき、スカウト活動への入り口となるピーパーやカブ年代の子どものいる保護者（主に母親）に向けたさまざまなPRのための方策を練ってきました。

子どもを参加させている母親たちは

2017年の春、実際にボーイスカウトに子どもを参加させている母親を対象に調査を行いました（サンプル数718）。その中で、ボーイスカウトに子どもを入れるきっかけの多くは、友人からの紹介や誘い21%を筆頭に、親や兄弟姉妹・縁者など身近な人たちが契機となっている場合が合わせて50%で、参加している、あるいは関わりのある人による誘いが、メディアからの情報やイベント等での接点、チラシ等よりも有効であるということがわかりました。また、その母親たちの満足度は全体で85%以上と高く、満足度が高いほど周囲への推奨者となる比率が高いことから、参加者の満足度を高めることが新たな仲間を呼び込む大きな力とな



るといことも再確認できました。

この調査では、母親たちが感じている満足の理由は「子どもが楽しんでいる14%」「家や学校ではできない体験13%」「さまざまな活動や体験12%」「野外活動7%」「指導者7%」以上で53%というデータ結果も出ました。満足の理由は、やはりスカウト活動が楽しい、家庭や学校とは異なる体験ができるという点にありました。

一方、不満を感じていることについては「指導者の力量不足21%」「活動低下14%」「活動内容13%」「親の負担が大きい6%」が合計54%という結果になりました。

母親たちの本音を知る

団支援・組織拡充委員会では、もっと踏み込んで母親たちの生の声を直接聞き、さまざまな戦略に生かしていくため、30代～50代のスカウトの母親9人による「母親世代タスクチーム」を編成し、5回の会合を開催しました。このタスクチームの会合では各回に設けたテーマに基づき、さまざまな話題をじっくりと展開し、その成果を「母親世代タスクチーム報告書 母親の本音から探る新規加盟員獲得と中途退団防止の14のポイント」と題した資料にまとめています。「母親が我が子の成長に何を望んでいるか」「母親は隊指導者とのコミュニケーションを望んでいる」「母親たちは、ここがちょっと不満、改善してほしいと思っている」など、示唆に富んだ具体的な内容が記述されています。

一部紹介（抜粋・要約）

子どもたちを見守るさまざまな価値観をもった指導者たち。

➡ 多くの指導者がスカウトたちを見守る。その指導者たちは、年齢も職業もさまざまで多様な価値観の集合体であり、そのような価値観を通じ

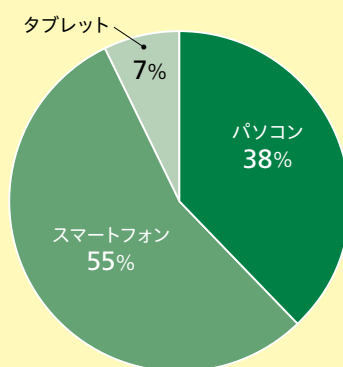
てスカウトの成長を支援していく。親や学校の先生以外の大人に子どもが褒められたり、相談できたりする点に魅力を感じる保護者は多い。

先のアンケート調査では指導者への不満が筆頭に挙がりました。しかし、満足の理由にも指導者とおるように、多様な価値観をもつ大人たちがスカウトたちを見守るということ自体は魅力と映っており、さまざまな改善によりアピールポイントにもなり得ることがわかります。

この「母親世代タスクチーム報告書」はほかにも具体的ヒントに満ちていますが、これは県連盟、地区、団の役員、隊指導者を対象とした組織内向けの参考資料としてまとめており、ネット上には掲出していません。昨年、各県連盟理事長、県連盟コミッショナー、組織拡充担当委員長宛に配布しておりますので、ぜひお役立てください。

母親たちに魅力を伝えるツール

若い母親たちの主な情報入手デバイスは、ここ数年で急激にスマートフォンに傾いているといわれています。2017年春にスタートした新規スカウト勧誘のための「なろう。一人前に。」キャンペーンのWEBサイトでも、スマートフォン55%、タブレット7%と、携帯端末がパソコンをしのいでいます。



移動時間や待ち時間に閲覧できる、スマートフォンからSNSを通じて得られる情報は、母親たちへの接点として有効であり、上記のキャンペーンでも、ボーイスカウトの魅力伝える1分半以内の短い動画を多数発信してきました。中でも前述の母親世代タスクチームに最も好評だったのが「一人前ってなんだろう？ ボーイスカウトが伝えたいこと」と題した一本。



動画「一人前ってなんだろう？ ボーイスカウトが伝えたいこと」

現代の子どもたちをとりまく環境を見ながら、ボーイスカウトが考える一人前像を紹介。「子どもたちがこれからの未来を生きていくうえで本当に大切なことを、一緒に考えていきませんか？」と語りかけるこの動画は、母親たちの共感を得る良いツールとなるようです。

冒頭で紹介した一般の母親層へのアンケートの1年半後、これらのキャンペーンの効果を測るために再度インターネットによるほぼ同様のアンケート調査を行いました(サンプル数618)。広く一般の母親世代を対象

としたアンケートですので、ボーイスカウトの認知度や活動理解度などには残念ながらあまり顕著な変化は見られませんでした。このアンケート回答者のうち、前述のPR動画の「いずれかを見たことがある」と回答した人に絞ってその効果を見ると、「体験意向67.3%→83.5%」「活動理解18.0%→29.1%」「参加意向17.6%→26.6%」とそれぞれ大きく違いが出ていることがわかりました。これらの動画やその他のツールを、より活用していく必要がありそうです。

	キャンペーン前 (2016年10月)	キャンペーン後 (2018年3月)	動画認知者 (いずれかの動画を見た人)
認知率	92.3%	91.1%	84.8%
目的共感度	89.1%	86.2%	86.1%
体験意向	67.3%	64.2%	83.5%
活動理解	18.0%	18.8%	29.1%
参加意向	17.6%	17.2%	26.6%
スローガン認知	9.6%	10.2%	25.3%
新スローガン認知	—	6.3%	24.1%

各県を訪問していきます

人数が思うように増えない、と悩んでいる団は少なくないと思いますが、現時点で、2018年度に新規加入スカウト数が前年度を上回った県連盟はなんと19もありました。

冒頭でも触れたように、ボーイスカウトが考えていること、活動内容やその魅力をきちんと紹介できれば、理解者や共感者をもっと増やすことはできるのです。テレビや新聞よりも、ボーイスカウトの魅力を直に知っている加盟員による身近なPRこそが効果的といえるのではないのでしょうか。

前項の動画のほか、パンフレットやポスターなど、さまざまなプロモーションツールを日本連盟のWEBサイトからダウンロードして活用いただけます。

また本年1月より、全国の団情報をより探しやすいように日本連盟のホームページを改修しています。各団の活動写真なども掲載できるようになります(更新方法は今後ご案内します)。

そして2019年度からは「社会連携・広報キャラバン(仮称)」と題し、こうしたツールのより効果的な使い方などを全国の皆さんに直接お伝えするため、社会連携・広報キャラバン小委員会のメンバーが多くの県連盟を訪問いたします。所属県連盟において当キャラバンを実施する際には、団の運営や広報を担当する方などの参加をお願いいたします。

一緒に知恵を出し合って、力を合わせて、ボーイスカウトの魅力をもっと広く発信してまいりましょう!



PRツールダウンロードサイト



新しい各団の情報ページ(イメージ)

ローカルホットライン Local Hot Line

団・地区・都道府県連盟だより

- ……団
- ⊠……地区
- ……都道府県連盟
- ◇……その他

東京 □日本橋～三条大橋を再び完走しました!

練馬第8団 ベンチャー隊長 大竹 康師



3年前にボーイ隊で挑戦し、ローカルホットラインでも取り上げていただいた「京都サイクリング」の参加メンバーが「またやりたい」と言うので、ベンチャープロジェクトとして取り組んでみるよう指導し、「プロジェクトチームがカブとボーイの初挑戦者を京都まで導く」という活動で、スカウト計6人が東京・日本橋から500kmを自転車で行き抜きました。

前回挑戦した際の記憶と記録を確認しながら準備が始まり、2018年12月28日に東京を出発。予定していた新幹線に沿うルートが積雪に見舞われたものの、念のため準備していた雪回避ルート(豊橋から渥美半島へそして伊勢湾フェリーで津へ渡る)を走行し、小学5年のくまスカウトから高校2年のベンチャースカウトまで、参加スカウト6人全員が元旦に京都・三条大橋までを完走しました。

3年で大きく成長したスカウトたちが、次はいよいよ指導者として活動を牽引する姿を夢見つつ、しっかり次世代へ活動を引き継いでいこうと気持ちを新たに新年の幕開けでした。

岐阜 □岐阜第1団 発団70周年記念行事

発団70周年記念事業実行委員 石樽 浩司

私たち岐阜第1団は、昭和23年に日本連盟に登録してから70年を迎えました。70年の歳月の間、時代の流れとともに刻んできた歴史を振り返るとともに、ボーイスカウト運動のさらなる飛躍を祈念し、昨年12月9日に岐阜市南部コミュニティセンターで記念行事を開催しました。

記念式典の後に行った「70周年の集い」では、総勢150人の参加者全員で室内模擬キャンプファイアを行いました。スカウトをはじめ、参加者一同が薪を数段積んだ中に灯されたLEDの光をみつめ、厳粛な雰囲気の中でスタートしました。この日は、「清流の国 ぎふ」マスコットキャラクターの「ミナモ」が特別出演で火の神役を務めました。OBスカウトによる70周年にちな



んだギター演奏と歌を皮切りに、ビーバースカウトからローバースカウト、さらに友好団のガールスカウト岐阜第3団の皆さんが代わるがわる歌や踊りを披露し、親睦を図るとともに絆を深めました。

京都 □発団50周年を迎えました

舞鶴第6団 団委員長 小島 勲

私たち舞鶴第6団は、昨年、発団50周年を迎えました。式典では舞鶴市の山口副市長から

激励のお言葉も頂戴し、盛大な会となりました。地元紙の取材もあり、新聞に掲載されました。

人づくりに大きな足あと

ボーイスカウト舞鶴第6団 半世紀の節目経て 飛躍誓う

東地区を中心に活動する「ボーイスカウト舞鶴第6団」(小島勲団長)が4月で発団50周年を迎えた。3日に倉前第二小で記念式典が開かれた。府ボーイスカウト連盟や綾部、福地山、京丹後の各友好団、行政関係者など約170人が出席し、半世紀の節目を祝った。(井上 務)



ボーイスカウトは1907年(明治40年)に英国で始まった青少年教育活動、野外的な活動を通じた自立心と協調性リーダーシップを育てることを目的として、現在世界169カ国で約600万人が加盟している。日本には約2000の活動団体が、約1万5000人が活動している。「第6団」は「第4団」(中地区の第3団)が活動している。各団の歴史をもとに、各団の特色を「タリ」(スカウト)で表現し、夜

大人もスカウト通じ成長



とん汁を食べながら交流を深める団員たち
「第6団は昭和43年に発団、小島中3から始まり、高校生のメンバーが加入し、35年前の「カブ」隊、昨年には小島と年長の「カブ」隊とを統合し、現在36人が在籍し女性団員も数人いる。



笑顔を見せる第6団と関係者ら

「第6団は昭和43年に発団、小島中3から始まり、高校生のメンバーが加入し、35年前の「カブ」隊、昨年には小島と年長の「カブ」隊とを統合し、現在36人が在籍し女性団員も数人いる。

舞鶴市民新聞 (2018.6.8)

丸なつて感動していきい、笑顔をみせ

福 島 自分へのつとめ

福島第1団 カブ隊隊長 大関 宏之

先日、カブ隊の保護者から嬉しいお話を聞いたので、紹介させていただきます。

昨日、息子とふたりでマジックショーを見に出かけました。後半、マジシャン体験があり、どうしてもチャレンジしたい息子は、張り切って素早く手を挙げました。すると、息子と同時に、5歳の女の子も手を挙げたので、ジャンケンでどちらか一人を決めることになりました。

しかし、息子はジャンケンをせずに、女の子に譲り、その子はとても喜んでいました。ショーが終わり、息子に、どうしてジャンケンをする前に譲ったのかと聞くと、「だって、ボーイスカウトだから」と言いました。もう一度聞くと、「自分も本当はとてもやりたかったけど、女の子は自分より年下だったから譲った」と言い、「【幼いものをいたわります】を実行した」のだとのこと。

息子が、ボーイスカウトである自分に誇りを持っているのだ、と感じた瞬間でした。そして、息子の心の根っこを大きく、深く、たくましくしてくれているボーイスカウトに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

長 崎 ◇ 50周年記念リユニオン

長崎第10団 ベンチャー隊隊長
瀬端 孝夫

昨年12月、第8回オーストラリアジャンボリー帰国50周年記念リユニオンを大阪で行いました。ジャンボリーは、1967年12月から翌1月にかけてブリスベン近郊で開催され、日本から指導者5人、スカウト11人が参加しました。

リユニオン当日は、松平頼武派遣隊長を含む6人が集まり、半世紀前のジャンボリーの想い出話に大いに花が咲きました。日本人の多くにとって、海外旅行が夢のような時代にジャンボリーに参加できたことは、スカウトたちのその後の人生を大きく変えました。皆65歳を過ぎ、ある人は米国企業に就職し、ある人は会社の社長になり、また、ある人は大学教授になりました。団委員長となり、今でもスカウティングを続けている人もいます。

まだ白豪主義の名残りのある国で受けた歓待に、スカウティングの国際性と兄弟愛を体験できたことは幸せなことでした。「若いスカウトも後に続いてほしい」との意見で、リユニオンの幕を閉じました。



春風を感じて ワンナイト・キャンプ

日を重ねるごとに暖かくなり若葉芽吹き桜咲くこの季節、ワンナイト・キャンプに出かけよう。

キャンプといっても、鍋釜、テントや多くの重くてかさばるキャンプ道具を担いで遠くのキャンプ場へ行くのではなく、近くの河原や海岸辺りにある砂浜などへ、一晩泊まるための必要最小限の道具5kg前後をそろえて、徒歩や自転車で春風を吹かれながら、訪れた暖かな季節の喜びを感じるという。

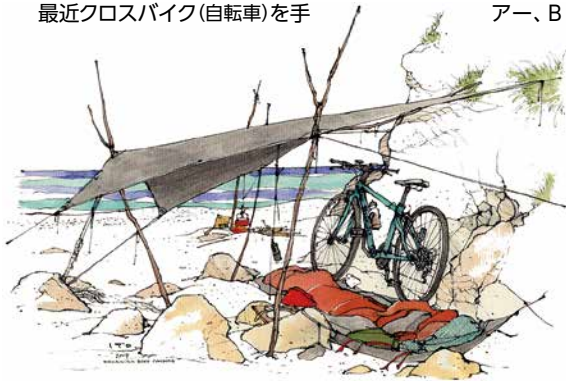
水や食料、調理ストーブに燃料とコッヘルに食器、着替えやテント、カップなど雨道具を考えると、とても5kgでは収まらないヨ！と心配するキミ、できない理由を考えるのではなく、どうすればいいかを考えるのだ。

いいじゃないか。たった一晩、昼と夜と翌朝の3食だけだよ。メインの食事は道の途中にある食堂やファミレス、もしくはコンビニで済ませれば、水と食料、調理ストーブに燃料、コッヘルに食器などは持たなくてすむのだ。

暖かい春のキャンプとはいえ、まだ夜風は少し寒く、小さな焚き火を熾して炎を楽しみながら暖をとる。焚き火ついでに小さめのケトルとカップを持ち込んで、温かな飲み物とクッキーなどを用意するといひ。

私は無人島をはじめあらゆるキャンプに、スケッチや思いついたアイデアをメモるために平らなテーブル代わりの20cm×35cm幅の杉板1枚を持ち歩いている。ある時は砂を掘るスコップとして、ある時はウチワとして焚き火の炎を大きくし、時に風上に立てて風をさえぎり炎をおさえる。風吹く夜には角に開けた穴に細引きを通して砂に30cm斜めに突き刺して板ペグとして使い、タープのバタつきをおさえる。チョットしたまな板としてはもちろん、雨の日の火起こしには縦に細かく削り節のようにナイフで削り出し、カラカラに乾いた杉板の着火材として使っている。

最近クロスバイク(自転車)を手



イラスト&文：伊東孝志

いとうたかし／南国・無人島へのシーカヤック放浪旅をこよなく愛する、奄美大島生まれの小学57年生。ヤドカリを人生の師と仰ぎ、筆先に北斎を見つめ、水彩の楽描(らくがき)を糧として、奄美・沖縄～東京を拠点にアウトドアライフな、古今東西南北の日々を漂流する。

●伊東孝志ブログ「道楽楽描／みちくさらくがき」～ <http://michikusa-rakugaki.blogspot.com/>

に入れたので、近くの砂浜に出かけワンナイト・キャンプを楽しんでい。片道20kmチョイ往復40km以上あるので、もちろん道具は5kg前後におさえている。道具は



1人用タープとグラウンドシート、シュラフにシーツ1枚、3m細引き4本にフォールディングナイフ1本、着火材3個にマッチとライターひとつずつ。500ccアルミケトルにマグカップ、ティーバッグ紅茶5袋にクッキーとミックスナッツ少々。そしてコンパクトカメラ、ミニLEDペンライトに予備の単三電池2本。歯ブラシにポケットティッシュ2個、そして手ぬぐいとタオル各1本。ウインドブレーカーと靴下、下着上下各一組。これでアツという間の4.5kg、ザックに入れて総重量5kgチョイ！

雨はどうするの？そこはスマホの天気予報やウインディを駆使し、1時間ごとの雨風をじっくり調べて対応するのだ。ありがたいことに最近の天気予報は地域ごとのピンポイント予測がかなり正確で、キャンプ当日と翌日が晴れるのを前提に行動を計画すればいいのだ。

クロスバイクで走って気づいたことだが、いまままで平らと思っていた道路が微妙な下りや上りなのに驚かされる。その度に変速機のギアチェンジをくり返し、心臓破りの急坂を登りきり、その後の下りの滑走による爽快な春風を全身に受けながら、キャンプ地を目指すのだ。

沈む夕陽をながめ、暮れなずむ空の色とりどりに変わりゆく大パノラマの美しさ。夜の帳と暗闇に赤々と燃える焚き火の炎、燃えゆく熾火のなんと美しいこと。満天の星空に輝く月の光、そして暗闇に響き渡る河原や浜辺の沢音やさざ波と潮騒の調べ。そして明け行くアカネ雲の大空に突然輝く眩しすぎる真っ赤な太陽など、日々暮らしている身近な世界でも意外と感動することができるのである。

そうそう、自転車に乗って大切なことは、頭部を守るヘルメットはもちろん手袋も必需品。出発前の点検ABCを忘れずにね。Aはタイヤのエア、Bは前後輪のブレーキ、Cはチェーンのオイルなど作動具合を要チェックだね。

それと、街中を走る場合は、周りの車や歩行者に要注意！特に交差点の通過のとき、トラックや大型バス、乗用車などは意外に死角があり、走っている自転車には気づいていないことが多いのだ。つねに安全を確認し、自分自身で身を守ることが大切なのだ。

そなえよつねに！安全に。



日本連盟創立100周年に向けて ボーイスカウト再興への道

シリーズ(7) 中途退団抑止の取り組み



日本連盟創立100周年に向けたボーイスカウト再興の本丸は「加盟員の増強」にこそあるといえるでしょう。今回は、隊や団の活動において「中途退団抑止」を強化していくための日本連盟の取り組みをご紹介します。

タスクチームによる検討～答申

2017年10月の理事会で、中途退団抑止に関する特別委員会と、その立ち上げにあたるタスクチームの設置が決まりました。タスクチームはコミッショナー、団支援・組織拡充、社会連携・広報、財務の各担当理事等から人選し、2017年度中に3回の会合をもって2018年度の特別委員会立ち上げに向けた答申をまとめました。

内容は「団に変化をもたらす、団が行うアクションと進捗を一緒になって見守り、必要な手を差し伸べる」「地区や県連盟も巻き込んで団にアプローチしていく」「成功事例を共有、活用できるようナレッジマネジメントを行う」などの特別委員会の取り組みを整理しています。全国一律の施策に協力と呼びかけるだけでなく、実際に各地に赴いて現状を知り、それぞれに応じて助言や情報を提供する、取り組みについて県連盟や他県連盟とも協力して力を合わせて進んでいく、という方向性を打ち出しました。



特別委員会編成～具体的な取り組みへ

2018年度に入り、前日本連盟コミッショナーの膳師常務理事を中心に、成功事例をもつ各地の団運営者数人を選出し、中途退団抑止特別委員会を編成しました。また、タスクチームに関係した委員会のメンバーの参席のもと、答申を踏まえた具体的な施策の検討を急ピッチで進めました。

答申が示したような機会を多く設けていくために、2018年12月、特別委員会が訪問して団運営者を行う地域ミーティング「次世代につなげるスカウト運動セミナー」の試行第1弾を広島県で開催し、その経験を踏まえた第2弾を本年2月に鳥取県で開催しました。



広島県でのセミナーの様子

これらのセミナーでは、各団の抱える課題の解決に向けて、包括的な課題から、各地域や各団の現状に焦点を当てました。さらに10年後の団の人数構成を見据えた具体的なアクションを促す機会となるよう、さ

まざまな情報を提供し、話し合いました。ここで得られた各地域の現況、課題、方向性などは、委員会ですらに研究し、今後、全国の団運営者に広くお伝えしていきます。

セミナーの今後の展開

2019年3月から、各ブロック2～3会場、計10会場前後でセミナーの開催を計画しており、より多くの団運営者の皆さんと対話の機会を設けていく予定です。

次世代につなげるスカウト運動セミナー 概要

1. 加盟員減少の現状、要因の分析
2. 中途退団を考える(グループワーク含む)
3. 団の機能を考える
4. 団運営の課題を考える
5. 自団の評価をする
6. 意見交換

計3時間

また、このセミナーは、団支援・組織拡充委員会によるモデル県連盟事業や、社会連携・広報委員会によるPR計画普及推進事業とも連携させながら、ときに共同開催なども行う予定です。

そのテストケースの意味を含め、本年5月に鹿児島県で開催する全国大会では、中途退団抑止、団支援・組織拡充、社会連携・広報の3委員会合同による「加盟員増強」に向けた分科会を企画しています。

スカウト家族を増やしていく

中途退団の主な理由として「プログラムが面白くない」「隊長が嫌い」「部活等が忙しい」「塾で勉強がしたい」「経済事情が許さない」等の調査結果がある一方、「班制度が充実する」「進級・進歩できる(富士・隼・菊・一級章の取得)」「絶対評価をする」「休隊制度を設ける」と退団者が減る等のポジティブな声もあります。

全国の県連盟コミッショナーへのアンケートでは、中途退団の大きな原因は「指導者関係33%」「隊運営(プログラム)関係34%」「団運営(その他)関係33%」と、ほぼ三分割されています。これらの問題を、それぞれの現場にあわせて具体的に解決していくために、中途退団抑止特別委員会が動いています。



膳師委員長

膳師委員長は、「中途退団抑止」という受け身の姿勢ではなく、「スカウト家族倍増計画」と題して取り組んでいこうと呼びかけています。

このシリーズでも、「スカウト家族倍増計画」に関わるさまざまな情報をお伝えしていきます。

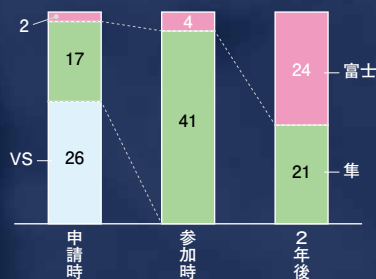


富士特別野営 2019

- 期間：8月10日(土)～16日(金) 6泊7日
- 場所：日本連盟・那須野営場、
大和の森 高萩スカウトフィールド
- 主な内容(イメージ)：設営技能、野営工作、野営における点検、救急法、結索法、地図とコンパス、計測、信号法、パイオニアリング、野帳作成、水上訓練、キャンプファイア、スカウトソング

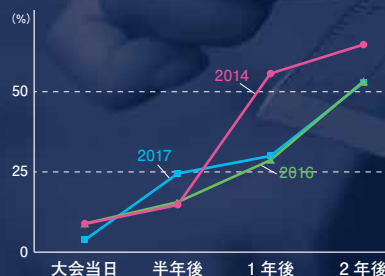
大会詳細や申し込み方法等は、今後、日本連盟ホームページでご案内します。

申し込み時はVS章・菊章でも構いません



多くのスカウトがベンチャースカウト章で準備を進め、隼スカウトとして大会に参加しています。

50%以上が富士スカウトに



大会で受けた刺激や、仲間との励まし合いにより、多くの富士スカウトが誕生しています。

参加したスカウトのコメント

- ・ 班の仲間との協力の大切さを実感しました。
- ・ スカウト活動の中で一番つらかったが、一番楽しい活動だったと胸を張って言えます。

自隊指導者のコメント

- ・ 顔つきが変わって帰ってきました。十分に貴重な経験をしてきたものと思われます。
- ・ 今までにないエキサイティングな体験をしてきたようです。

保護者のコメント

- ・ 「富士スカウト章を取るのではなく、富士スカウトになりたい」と隊長に報告したようです。

2018年発生 自然災害への支援状況報告

昨年の夏から秋にかけて起きた「平成30年7月豪雨」「平成30年台風第21号」「北海道胆振東部地震」への支援状況を報告します。引き続き、ご支援いただけますよう、お願いいたします。

※ 本頁では、日本赤十字社等への直送分を含み、日本連盟に活動報告をいただいている団等(2019年1月31日受付分まで)を掲載しております。

※ 隊名や個人名等の報告でも、団名の記載があった場合には団名で紹介しています(敬称略、順不同)。あらかじめご了承ください。

平成30年7月豪雨

- 日本赤十字社等を通じて被災者に直接送られる義援金 **¥7,985,595**
【茨城】結城1、つくば3、土浦5【栃木】栃木1【群馬】前橋15【千葉】旭1【福井】坂井5【静岡】菊川1、清水地区【愛知】名古屋51【京都】京都50【香川】観音寺5【福岡】筑紫2
- スカウト関係者からスカウト関係者に対する見舞金 **¥272,035**
【奈良】生駒5
- ボーイスカウトによる支援活動をサポートするための災害活動支援金 **¥84,088**

平成30年台風第21号

- 日本赤十字社等を通じて被災者に直接送られる義援金 **¥841,693**
【千葉】旭1【神奈川】川崎56【富山】高岡8、高岡28【滋賀】大津1【兵庫】神戸40、神戸54【奈良】生駒9、北葛城6【愛媛】新居浜2、北条2、大洲1
- スカウト関係者からスカウト関係者に対する見舞金 **¥64,470**
【千葉】松戸11
- ボーイスカウトによる支援活動をサポートするための災害活動支援金
現時点での報告はありません。

北海道胆振東部地震

- 日本赤十字社等を通じて被災者に直接送られる義援金 **¥2,987,036**
【茨城】結城1、つくば3、土浦5【千葉】旭1【神奈川】川崎56、藤沢6、横浜123【静岡】天竜1【愛知】名古屋51【滋賀】大津1、大津15【兵庫】神戸54【奈良】生駒9、北葛城6【大阪】大阪81【愛媛】四国中央2、新居浜2、松山7、大洲1
- スカウト関係者からスカウト関係者に対する見舞金 **¥603,049**
【熊本】熊本18
- ボーイスカウトによる支援活動をサポートするための災害活動支援金
現時点での報告はありません。

募金等、活動報告のお願い

日本連盟に届いた活動報告により、使途を確認できた募金について掲載しております。募金活動を実施した場合は、直接日本赤十字社等へ送金された団も含め、活動報告の提出にご協力ください。日本赤十字社の受付延長に伴い、日本連盟でも募金の受付を3月15日まで継続いたします。

スカウティングとウッドクラフト⑨

日本連盟「教育規程」で再認識する スカウト教育の特性と ウッドクラフト教育の重要性



野外を主な教場とする。それは、スカウト運動の創始者ベーデン-パウエルの構想であり、100年の日本のスカウティングの伝統ともいえます。

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟は定款の規定により、教育の基本方針・組織・基準に必要な事項を「教育規程」で定めています。そこに我が国のスカ

ウト運動が目指すものが明記されています。

指導者講習会などですでお読みの方も多いでしょうが、今号では、現行の教育規程から「教育の方法」を取り上げます。ハイキング、キャンプをはじめとする自然の中での野外活動、ウッドクラフト教育の重要性について、もう一度確かめてみましょう。

ボーイスカウト日本連盟教育規程「教育の方法」

教育規程「第7章 教育の方法」では、まず「基本」として、

スカウト教育の基本は、「ちかい」と「おきて」の実践を基盤とする。ただし、ビーバースカウトは「やくそく」と「きまり」を、カブスカウトは「やくそく」と「さだめ」の実践を基盤とする。

とし、次に4つの「スカウト教育の特性」をあげています。

スカウト教育の特性（数字は本誌編集部がつけたものです）

- 1 行うことによって学ぶ** 教育の方法としては、青少年が、知識、技能、心構えを身につけるために「行うことによって学ぶ」こととする。
- 2 班制教育** 教育の方法としては、班などの小グループによる活動を通して、青少年が責任感や信頼性、指導性や協調性などを育み、社会の一員として自らの役割を果たすことができるように「班制教育」を行うこととする。
- 3 進歩制度** 教育の方法としては、青少年の自発活動と目標達成への挑戦意欲を促し、発達段階に応じて調和の取れた成長を図るために「進歩制度」を活用する。
- 4 野外活動** 教育の方法としては、青少年が大自然の神秘に触れ、畏敬の念を体感することによって信仰心の芽生えを促し、忍耐力や体力を鍛え体験活動を実践できる野外を主たる「教場」とする。

第7章はさらに「信仰」と「海外渡航」の重要性を明記し、続いて、この「基本」と「特性」に基づいたビーバーからローバーまで各部門の「訓育と活動」などについて細かく規定しています。

当連載の「スカウティングとウッドクラフト」という観点から、自然と野外活動に関する条項を抜き出してみました。

① ビーバースカウト活動の目標

「自然に親しませる」

② カブスカウト活動の目標

「自然に親しみ愛護する心を育てる」

「好奇心と冒険心を満足させる」

③ ボーイスカウト活動の目標



「野外活動により大自然を知る」

「好奇心と冒険心の満足する活動を行う」

④ ベンチャースカウト活動の目標

「野外活動を通して自らの健康の増進を図り、自己の確立を目指す」

⑤ ローバースカウト活動の目標

「高度の野外活動により、心身を鍛錬しスカウト技能を磨き奉仕能力を向上させる」

「ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊またはベンチャー隊の訓練指導に協力し、奉仕する」

このように、年齢や部門が進むにつれ、野外活動やウッドクラフトが目指すものが高くなっていくことがわかります。

さらに「教育の方法」に関連した「施行細則」では、カブスカウトのチャレンジャー章やボーイ、ベンチャースカウトの技能章の課目が並び、ウッドクラフトのより一層の向上が期待されています。



参考 「世界スカウト機構」(WOSM)のスカウト教育指針

WOSMでは、「ちかい」と「おきて」の実践を基盤に、スカウト教育の指針として右の8要素を上げています（本誌2019年1月号参照）。「行うことによって学ぶ」をはじめ、日本連盟「教育規程」の4つの特性が含まれており、自然の中での活動も重視されています。スカウティングは世界共通なのです。



日本連盟初代総裁 後藤新平の言葉

1922(大正11)年に発足した少年団日本連盟初代総裁・後藤新平(のちに総長)は、1924年2月14日、地方自治体の長官を招いた会合で「少年団運動の使命」と題して講演し、その一部でボーイスカウト教育の特性を以下のように的確に述べています(1924年4月『少年団研究 創刊号』掲載より。漢字は新字体とし、本誌編集部で句読点を補いました)。

〔前略〕少年団運動は学校教育^せ其^の他少年教育の拡充^{しか}であります。併し其の訓練法に至つては従前の学校教育と其の選を異にし、少年の学業や業務の余暇を以て少年に通有なる興味を利用し、努めて自然に親しましめやうとするのであります。然^{しか}して観察推理の練習や手工技能の錬磨を主とし、人格を養成し身体を強健にせんとするものであつて、内に在りては能く家事を助け、外に出ては能く社会に奉仕し、人を助くるの實力を練り、他人を尊重すると共に自立の精神を養はしめるのであります。〔後略〕

もちろん、ベーデン-パウエル^の教育観に通じるものですが、日本で始まったスカウティングも、当初から自然の中の教場を目指していたのです。

連盟再建と 「日本ボーイスカウト憲章」

第2次世界大戦後、1949(昭和24)年4月、ボーイスカウト日本連盟は再建されました。1951年2月には、組織と方針をより確かなものにするために臨時全国総会が開かれ、そこで「日本ボーイスカウト憲章」が可決されました。その「第1章 総則 第1条」を引用します。



憲章をまとめた三島通陽総長

第1条 ボーイスカウト運動は、青少年の閑時を活用し主として野外自然の境地を教育の場として行う教育活動であり、次条に掲げるスカウトの「ちかい」および「おきて」の実践を基盤とし、又班制教育と各種の進歩制度とをその基本的方法とするものである。

戦時下で歪められたスカウト教育の方法が是正され、これは現在に続くものとなりました。もちろん、野外が教育の場とされています。

自然に親しむ野外活動は、スカウト教育を支える重要な柱です。「体験学習」「班制教育」「進歩制度」などは屋内でも実行できることがありますが、「野外活動」はウッドクラフト抜きではできません。もとより、スカウト教育の目標は、優秀なウッドクラフトマンを育てることに留まるものではありませんが、スカウティングを全うするにはウッドクラフトの修得が必要であり、スカウト教育の他の特性も野外でこそおおいに生きるのではないのでしょうか。

指導者(特に隊指導者)は、もう一度「教育規程」を読み返し、スカウティングとウッドクラフトの関連を確認し、まずは、スカウトを野外に連れ出しましょう。



『日本連盟規程集 平成30年版』

2018年7月・ボーイスカウト日本連盟刊発行/650円(税込)

いろいろな規程の改正などに応じて、ほぼ毎年発行している。「教育規程」のほか、「危機管理規程」「コンプライアンス規程」「『セーフ・フロム・ハーム』通報相談処理規程」などを収録し、参考資料として日本連盟の「個人情報の保護(プライバシーポリシー)について」などもあり、団の運営に役立てることもできる。WOSMの憲章も収録。

おすすめ! 原点に帰る本

アーサー・ランサム作/神宮輝夫訳
『ツバメ号とアマゾン号』
上・下 [岩波少年文庫全2冊]
2010年・岩波書店発行/本体定価各760円



イングランド北部の湖水地方。夏休みを迎えたウォーカー家の4人兄弟は、無人島でのキャンプ生活を始める。島へ渡るのは、自分たちのヨット「ツバメ号」。船長は長男のジョン。突如現れた「海賊船」アマゾン号の正体は? さらにはハウスボートの主、大人の船長プリントとの対決が迫る!

ご存じ、児童文学の名作。1930年の作品だが、今も読み継がれているのは、そこに「冒険する心」があふれているからだと言者は解説している。自然の中での生活、子どもたちの「自治」などスカウト指導の際の示唆に富む内容だが、なにより登場人物とストーリー展開が抜群。ランサム本人の挿絵も楽しい。

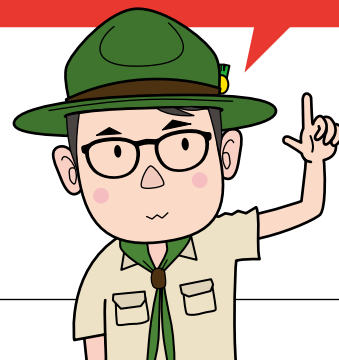
『精霊の守り人』の著者でもある作家の上橋菜穂子さんが、「永遠の夏の光」と題して『ツバメ号と…』に賞賛の文を寄せています(下巻に収録)。その中に、

「そんなことをいくども体験した後で『ツバメ号とアマゾン号』を再読してみると、つくづく、ジョンたちの野営技術の見事さに感嘆してしまう。」

という一節があります。「そんなこと」とは、文化人類学者でもあった上橋さんが、オーストラリアのブッシュでキャンプしていて、ひどい雨に降られ、寒さで寝られなかったことなどです。

もちろん上橋さんご指摘のように、このランサムの物語は、ウッドクラフトやシークラフト修得の域を超えた、人生の永遠の糧となるテーマを教えてください。とはいえ、読み進めていくうちに、著者自身が子どものころに体験したウッドクラフトやシークラフトのリアルな描写がこの物語を彩り、支えていることがわかりいただけると思います。子どもたちはクラフトの修得や活用を通じて多くのことを学びます。

時代を追ってスカウト教育でのウッドクラフトの重要性をご紹介してきました。今号は本テーマ最終回として、この名作をお勧めしました。





舎営ができる



携帯電話が使える



食事施設がある



駐車場あり



川遊びができる



男女別のトイレがある



営火ができる



その他

神奈川県相模原市藤野町佐野川1822

都心から70分のリフレッシュゾーン **桐花園**

<http://www.tokaen.jp>



この号持参でキャンプファイアをサービス!!

相模湖に近く、陣馬山、生藤山の麓に位置する緑に囲まれたキャンプ場です。

カブバック小人 ¥5,600 (1泊3食税込)・寝具お持ち込みの場合 ¥5,300(込) / 大人 ¥6,300 (1泊3食税込)・寝具お持ち込みの場合 ¥6,000 *10月1日から消費税が変わりますので上記の金額は9月30日までです。*バンガロー・寝具(シーツ付)・入浴・食事付 *3食の中で一部自炊やカブ弁当も料金内で可能です。*



T 0426-87-2239
F 0426-87-3159
M info@tokaen.jp

■収容人数/バンガロー・キャビン250人[35棟]、民宿・合宿所100人、テント[10張] ■営業期間/通年 ■アクセス/中央自動車道相模湖ICより4km、JR中央線藤野駅より送迎あり



群馬県高崎市下室田町4642-5

パン作り体験が出来るキャンプ場 **サンコーハルナパーク**

<http://www.harunapark.com>



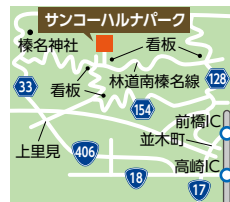
パン作り体験が出来るキャンプ場 & ワイルド

上毛三山のひとつ、榛名山麓標高650mに位置し、場内にはヤマメ等が生息する沢が流れ、場内の管理棟「むさしや」ではマキ窯で焼く、手作りパンを作ることができます。またテントサイトの中で林間サイトはまさにワイルドの一言! 他のサイトとは川を挟んで離れている為、貸切りもOKな自然体験学習に最適なサイトです。



T 027-374-5151
F 027-374-0370
M hp@harunapark.com

■収容人数/舎営28人、テントサイト120人 ■営業期間/3月下旬~11月末 ■アクセス/関越自動車道高崎IC、前橋ICより国道406号、上里見交差点を右折し約10分(7km)



岐阜県加茂郡白川町和泉181-1

美濃白川アウトドアリゾート **クオーレふれあいの里**

<http://e-900.com>



大自然の里でアウトドア三昧

清流「白川」沿いに位置し、川遊びや釣り、つかみ取り、自然散策など楽しみ方は様々。夜は焚き火を囲みながら、満天の星空を眺めるのも楽しみの一つ。芝の広場でのレクリエーションも可能です。活動の後には天然温泉「美濃白川道の駅温泉」にぜひどうぞ。



T 0574-72-2462
F 0574-72-2189
M info@e-900.com

■収容人数/バンガロー264人、コテージ182人 他 ■営業期間/通年 ■アクセス/東海環状自動車道美濃加茂ICから国道41号を高山方面へ30km、白川口交差点から県道62号を約4km



福島県耶麻郡裏磐梯五色沼入口1074-511

みちのく野営場

<http://www.r-michinoku.com>



6,000坪の野営場は自然豊かな高原リゾート



T 0241-32-2109
F 0241-32-3000
M rim@agate.plala.or.jp



磐梯山一望



リゾートインみちのく60名収容

磐梯山一望 みちのく野営場6,000坪 五色沼へ徒歩7分 リゾートインみちのく60名収容

- ・標高800mの裏磐梯は山と湖の国
- ・多彩なプログラム作成が魅力
- ・80帖の多目的ホール完備(雨対策)
- ・みちのくマイクロバス(29人乗)所有
- ・コース間の送迎もスムーズに!!
- ・キャンプファイヤー場有り
- ・磐梯山一望の露天風呂(檜・岩)有り
- ・野営・舎営の合同キャンプも可能
- ・食材の注文もOK
- ・ぜひ、下見にお越しください

■収容人数/収容人数 野営場6,000坪 ■営業期間/通年 ■アクセス/磐越自動車道猪苗代・磐梯高原ICよりクルマで20分。JR猪苗代駅より東都バスで五色沼入口下車、徒歩7分



維持会員 (敬称略) スカウト運動を財政面からご支援いただいている個人・法人会員の方々です。

ご支援ありがとうございます 2018年11~12月度

【北海道】 齊藤 満 三国 久介 高野 ひとみ 喜多 英司 寺迫 公裕 BS釧路地区協議会	寺田 山崎 山崎 井上 森川 島 松平 松 齊藤 耕一 一之瀬 真弥 菊池 清 柿沼 幸一 黒澤 岳博 男澤 望 BS久喜22 昭和製作所	典昭 男 久雄 正 正晴 義 義継 一郎 清一 弥 幸一 博 望 1 喜 2 2 製作所	菅原 信 中島 裕 柳下 明 砂原 肇 近藤 明 河崎 栄 多田 孝 BS横浜43 BS横浜74	信浩 一 裕明 肇 明彦 作 元 孝 清 元 義 3 福 井 2	【富山】 安居 堯雄 【石川】 村山 和 内山 光 米田 夫 手井 博 【福井】 辻裏 宏 清水 澄 籠 義 BS福井2	和光 夫 始 弘 照 誠 正 治 宏 司 樹 賢 左 近 富 土 9 富 土 6 富 土 15 静 岡 27 三 島 地区 静 岡 地区 富士宮地区 清水地区 BS静岡10育成会 BS静岡無線	功一 郎 半 田 5 半 田 6 名古屋128 名古屋11 BS岡崎12 名古屋19 BS名古屋101育成会 岡谷不動産(株) 立 寺 【三重】 田中 勤 川北 仲 前田 佳 柴谷 隆 柴谷 伸 中 久 森 彦 真 司	坂口 勝基 辻村 泰善 智原測量設計(株) 【和歌山】 北畑 耕 嶋田 士郎 高出 泰宏 田中 英明 阪井 信也 仲岡 好雄 【大阪】 高見 篤志 豊澤 明 湯川 弥寿 喜多 文夫 松下 修造 斎藤 浩 榎本 靖彦 川口 明 西沢 信雄 豊中カトリック スカウト育成会	岩 瀨 瀧 龍 政 山 宮本 昌 山本 昌 羽原 文夫 藤岡 幹夫 BS広島県連盟 BS広島県連盟 スカウトクラブ 中国電力(株) 役員有志	香水 明 徳永 泰治 仲 一 昌 一 原 文 原 夫 石井 二 三夫 【長崎】 渡部 明 【大分】 永田 秀 内田 日出男 【宮崎】 山口 洋 山田 忠 吉田 昌 豊本 彦 要 宗 【鹿児島】 内藤 宗 藤 保 大生 剛 城間 恒三郎 【日本】 西村 稔 松原 俊 森 芳 行 武 大 孝 大 数 大 浦 額 谷 板 橋 宮 崎 山 正 戸 高 出 田 BS広島県連盟 社会連携 広報委員一同 玄プランニング (株) 澤 原	BS福岡33 BS福岡22 BS北九州51 BS福岡23 BS福岡20育成会 【佐賀】 小池 正 吉原 良 原 輔 石井 二 三夫 【長崎】 渡部 明 【大分】 永田 秀 内田 日出男 【宮崎】 山口 洋 山田 忠 吉田 昌 豊本 彦 要 宗 【鹿児島】 内藤 宗 藤 保 大生 剛 城間 恒三郎 【日本】 西村 稔 松原 俊 森 芳 行 武 大 孝 大 数 大 浦 額 谷 板 橋 宮 崎 山 正 戸 高 出 田 BS広島県連盟 社会連携 広報委員一同 玄プランニング (株) 澤 原
--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	--	--

本誌2019年1月号にて、以下の皆さまの掲載漏れがございました。お詫び申し上げます。

【神奈川】 須藤 守之 畑 正幸 瀬戸 清規	久保井 基隆 大津 省一 荒井 紀美子	【山梨】 山岸 一 山野 一	【東京】 豊泉 喜一 渡邊 博隆 矢 謙也	島崎 龍三 岩崎 健三 唐橋 聡 久米 邦貞	林 栄治郎 BS練馬地区 (株)立川井上商店
--	---------------------------	-----------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	------------------------------

マンスリースポーツ維持会員

毎月1,000円から、クレジットカードでの自動引き落としによる維持会費のお支払いが可能です。

<https://www.scout.or.jp/support/04/>

11~12月に入会または1年継続された方々です。

【福島】 関口 栄幸	【滋賀】 佐藤 博則	宇野 舞香 木村 公一
【富山】 東海 直樹	【福岡】 赤星 雄之	
【愛知】 竹山 勉	【日本】 渋谷 茂光	

日本連盟情報 Mar. 2019

2月中旬までの会議・研修など

- 12月**
- 19日(水) ● 財務委員会(第4回)
 - 22日(土) ● 次世代につなげるスカウト運動セミナー(広島)
 - 22日(土)~24日(月)
 - 第22回全国スカウトフォーラム
 - 23日(日) ● プログラム委員会(第4回)
 - 23日(日)~27日(木)
 - 香港ローバームート派遣(香港)

1月

 - 8日(火) ● 運営会議(第9回)
 - スカウトと社会をつなぐ場所(第11回)
 - 12日(土)~13日(日)

- 平成30年度スカウトソングワークショップ 12日(土)~20日(日)
- 平成30年度日韓スカウト交歓計画 15日(火)
- 臨時理事会(第3回) 19日(土)
- 全国防災キャラバン2018(岩手) 19日(土)~20日(日)
 - 全国県連盟コミッショナー会議(第3回)
- 団支援・組織拡充委員会(第4回) 20日(日)
- 信仰奨励委員会(第3回) 21日(月)
- 県連盟代表者会議(第2回) 26日(土)
 - RCJ Re:Quest 実行委員会(第5回)
 - 2019年度ウッドバッジ実修所・団委員実修所 所長・主任所員会議
 - 2019年新年賀詞交歓会
- 中途退団抑止特別委員会(第4回) 27日(日)
- 共済運営特別委員会(第4回)

- 2月**
- 2日(土) ● 次世代につなげるスカウト運動セミナー(鳥取)
 - プログラム委員会(第5回)
 - スカウトソング特別委員会(第3回)
 - 3日(日) ● 富士特別野営2019実行委員会(第1回)
 - 3日(日)~24日(日)
 - 平成30年度日本連盟トレーナー研究集会
 - 5日(火) ● 運営会議(第10回)
 - 9日(土) ● 「セーフ・フロム・ハーム」安全委員会(第4回)
 - 10日(日) ● 国際委員会(第4回)
 - 17日(日) ● スカウト教育推進会議(第4回)
 - 全国防災キャラバン2018(三重)

『救急法 - 野外活動における応急手当 -』 改訂版2019発行



品番: 65277
サイズ: A5 / 272頁
価格: 900円(税込)

救急法の書籍を大きく改訂しました。
全国のスカウトショップ・販売店でお求めください。

今回の主な改訂

- 1章「心肺蘇生法」関連の記載内容を『JRC(日本蘇生協議会)蘇生ガイドライン2015』に準拠した内容に改訂
- 0章「大切な心構え」/17章「てんかん」を新規追加
- 23章「役立つ情報」に「心肺蘇生法」「気道異物除去」「子どもの一次救命処置」のまとめ(日本医師会HPより転載)を掲載
- 全体的な精査による、総合的な改訂

SCOUTING

デジタル配信しています！



機関誌「スカウティング」のデジタル版(PDF)を、読者の皆さんを対象に配信しています。

デジタル版は、文字もそのままコピーできますので、さまざまな資料に、より簡単に引用できるほか、タブレット端末などに入れ、いつでも読むことができます。

ぜひご利用ください。



ID: scouting-magazine

PASS: sonaeyotuneni

URL: <https://www.scout.or.jp/scoutingmagazine/issue/>

2019
No.731

5

SCOUTING

次号予告

次号の『スカウティング』は、2019年5月1日発行

特集

2019年度事業計画／ 天皇陛下御即位記念特集

次号は、100周年に向けた2019年度の取り組みをお届けします。また、5月1日に御即位される現皇太子殿下が御臨席されたボーイスカウトの各種大会を写真で振り返ります。

なんでも応募先



公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟事務局『スカウティング』投稿係

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 電話 03-6913-6262(代表) FAX 03-6913-6263 Eメール scouting@scout.or.jp

投稿規定

本誌では読者の皆さまからの投稿を常時受け付けています。投稿が掲載された方には、掲載誌と記念品をお送りしています。投稿は、文字数400字で写真3枚を目安にしてください。新聞掲載記事は、新聞名、掲載日を明記してください。なお、お送りいただいた写真や新聞記事は原則として返却しませんのでご了承ください。お送りいただいた投稿は、抜粋しての使用や一部を編集させていただく場合があり、また掲載できない場合もあります。あらかじめご了承ください。たくさんのお投稿をお待ちしております。

日本連盟ホームページはこちら

<https://www.scout.or.jp>

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟『スカウティング』2019年3月号 No.730 平成31年3月1日発行(奇数月1日発行)

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 <https://www.scout.or.jp>

「スカウティング」は、全国のボーイスカウト指導者(隊指導者、団委員、スカウトクラブ構成員、地区・県連盟・日本連盟役員)に1冊お送りしています。加盟登録住所にお送りしますので、住所の誤り、変更がある場合は団での登録住所変更の手続きをお願いします。登録システムに伴い、①4月～8月に新規、追加登録申請が承認された場合:5月号から当該月号を同封にて送付(例:8月承認の場合は9月号に5月号、7月号を同封) ②9月～翌年3月に登録申請が承認された場合:11月号から当該月号を同封にて送付。9月以降の「追加登録」で、5月号～9月号をご希望の場合は、日本連盟事務局社会連携・広報部にご相談ください。バックナンバーの在庫がある場合はお送りいたします。発行月の前月10日以降は、送付作業工程に間に合わないため、当該月号は次号に同封されます。なお本誌の購読料は、登録料に含まれています。上記以外の方も別途購読いただくことが可能です。詳しくはボーイスカウト日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp> から、スカウティング誌のページをご覧ください。

©公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 2019 写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟事務局社会連携・広報部(代表 TEL: 03-6913-6262)までご連絡ください。

～入隊、上進、そして新しい出発に～

フィールドマスター



名入れ無料キャンペーン

キャンペーン期間：2019年3月31日まで

活動に必要な機能が1つに

フィールドマスターは、ブレード、栓抜き、はさみ、のこぎりなど、スカウト活動に必要な機能が1つに収まったモデルです。これを1つバッグに入れておけば、キャンプやハイキングはもちろん、サイクリングやさまざまなアドベンチャープログラムの際も大活躍間違いなしです。

スカウトショップにお申し込みいただくと、今なら名入れ無料。入隊や進級、新たな門出を迎えたスカウトたちにおすすめの一品です。

品番：97330 価格：¥5,012-(税込) サイズ：91mm

主な機能：ラージブレード、スモールブレード、カン切り、栓抜き、ワイヤーストリッパー、マイナスドライバー、リマー、千枚通し、プラスドライバー、はさみ、のこぎり、マルチフック、つまようじ、ピンセット、キーリング

詳細やお申し込み方法は、全国のスカウトショップ・販売協力店、または下記 QR コード等からホームページをご覧ください。



SCOUT SHOP JAPAN

Official Shop of the Scout Association of Japan

<https://www.scout.or.jp/scoutshop/>





 ライト	 バッテリー・電池	 ロープ	 非常食	 スコップ
 防寒着	<h2>そなえよつねに。 そろえよつねに。</h2> <p>東日本大震災から8年の月日が経ちました。現在非常用持ち出し袋を備えている家は、36.9%^{*1}しかないそうです。もしもの時、「自分のことは自分で」はもちろんですが、どんな状況でも周りや地域の人たちの役に立ってこそ、私たちスカウトです。</p> <p>そんな私たちは、「そなえよつねに」で心の備えはもちろんですが、「そろえよつねに」でいざという時の物の準備をしておくことも重要です。</p> <p>押入のキャンプグッズを整理し、1つのバッグに入れてまとめておくことで、ワンランク上の非常用持ち出し袋が完成します。</p> <p>はじめよう。「そなえよつねに」と「そろえよつねに」。</p> <p style="text-align: right;"><small>※1 2017年 マイナビニュース調べ</small></p>			 雨具・ポンチョ
 救急用具				 ライター・マッチ
 水				 ポリ袋・トイレットペーパー
 グローブ				 ナイフ・工具
 ラジオ				 笛
 ポリタンク				 ナイフ・工具

スカウトショップでも、非常用持ち出し袋に役立つアイテム取り扱い中！



ダッフルバッグ 65
品番：83881 ¥12,800



SAJ スリムホイッスル
品番：82158 ¥432



サバイバルシート
品番：83718 ¥648



エムパワード エマージ
品番：89434 ¥2,260



救急ケース
品番：82127 ¥648



レインケープ トドラーS
品番：79931 ¥2,200



ソーラーパネル 5 プラス
品番：92674 ¥11,880



パワーストックランタン1000
品番：89437 ¥20,520



ファイヤーステール
品番：89477 ¥1,620



スタイル CS
品番：81411 ¥3,888

価格は税込です。

「そろえよつねに」。足りないものは、スカウトショップで。



SCOUT SHOP JAPAN
Official Shop of the Scout Association of Japan